

自衛隊の活動と災害救助

奈良県庁 総務部 知事公室

防災統括室

米 津 浩 幸

2022年5月17日

自己紹介

昭和 5 7 年 防衛大学校

昭和 6 1 年 自衛官

2 3 . 3 東日本大震災

2 3 . 9 紀伊半島大水害

2 8 . 4 熊本地震

平成 3 0 年 奈良県庁

3 0 . 6 大阪北部地震

東日本大震災時に釜石市・大槌町で活動



1 自衛隊を取り巻く環境 (その1)

ウクライナの状況

知っていますか？

砲弾

地对地ミサイル

巡航ミサイル

ミサイル

地对艦ミサイル

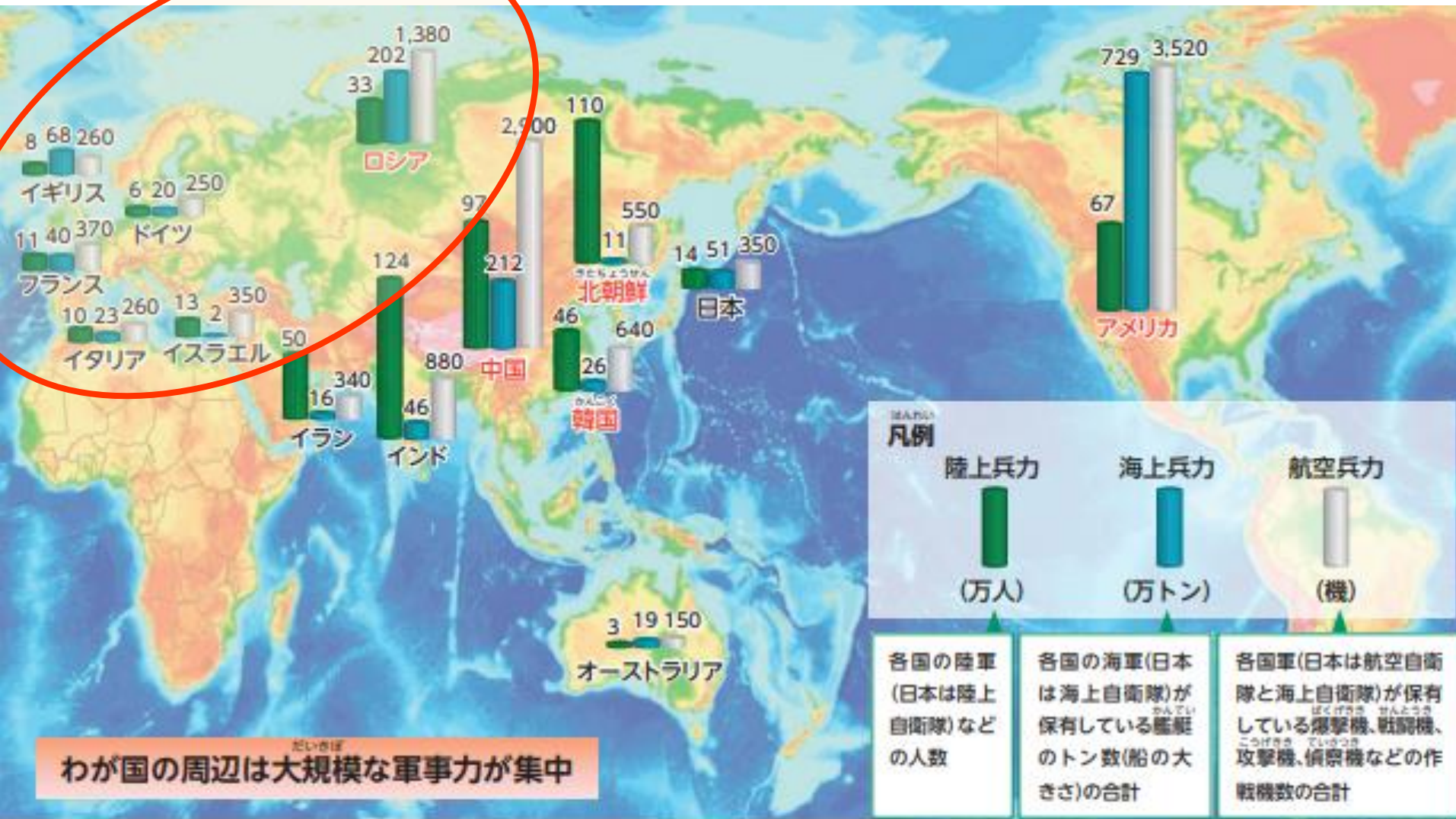
弾道ミサイル

地对空ミサイル

艦対艦ミサイル

空対空ミサイル

世界の軍事力の現状（ヨーロッパの状況）



ウクライナと日本の比較



日本：37万8千km²キロ（126百万人）　ウクライナ：60万4千km²（44百万人）

ロシアとウクライナの比較

	ロシア	ウクライナ
人口 (千万人)	14.7	4.2
面積 (万km ²)	1710	60
陸上兵力 (万人)	33	20
海上兵力 (万トン)	202	25
作戦機 (機)	1380	70

破壊の程度からわかる使用兵器



点で制圧



戦車による射撃
大砲による射撃



面で制圧



爆撃機による空爆
ミサイルによる爆撃

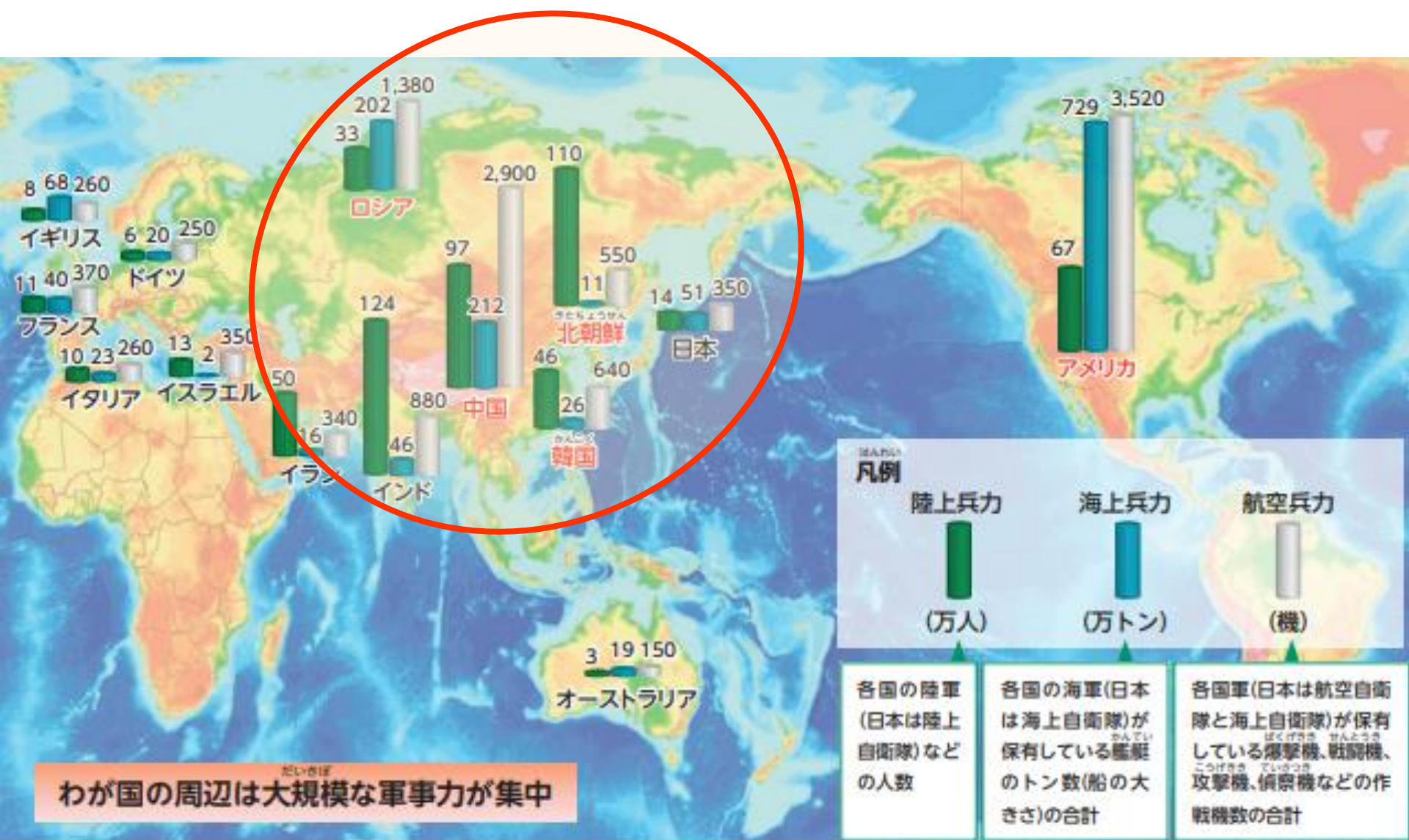
破壊の程度からわかる使用兵器（3）



1 自衛隊を取り巻く環境 (その2)

アジアの状況

世界の軍事力の現状（アジアの状況）



アジア各国の比較

	中国	北朝鮮	韓国	台湾	日本	在韓米軍 在日米軍
人口 (千万人)	1 4 0	2.5	5.1	2.4	1 3	
面積 (万km ²)	9 6 0	1 2	1 0	3.6	3 7.8	
陸上兵力 (万人)	9 7	1 1 0	4 6	9	1 4	2 2
海上兵力 (万トン)	2 1 2	1 1	2 6	2 0	5 1	
作戦機 (機)	2 9 0 0	5 5 0	6 4 0	5 2 0	3 5 0	8 0 1 5 0

東アジア各国の位置関係（中国の位置）



東アジア各国の位置と海岸線（1）



東アジア各国の位置と海岸線（2）



陸上自衛隊の南西諸島への配備

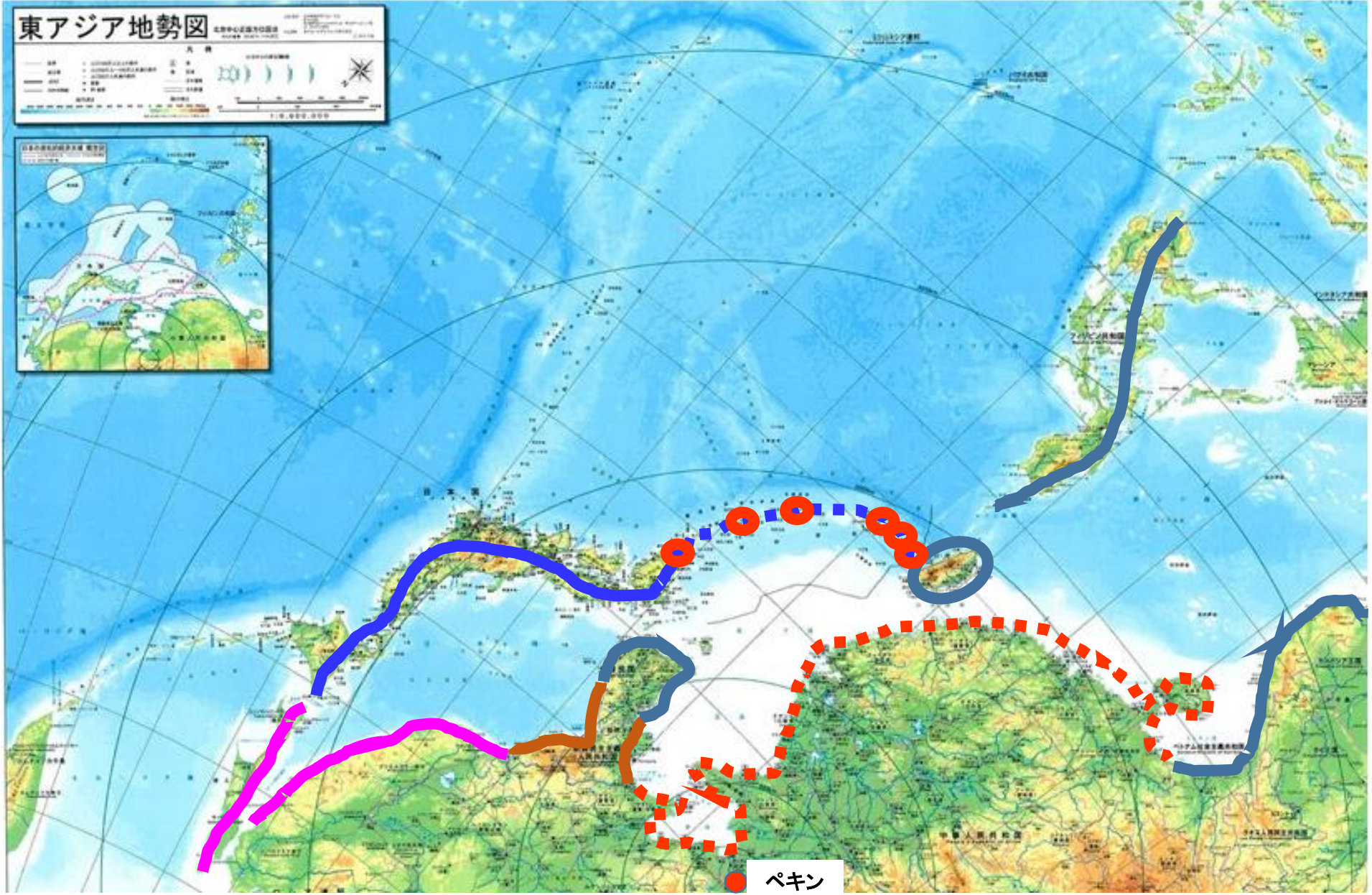
図表Ⅲ-1-2-2

九州・南西地域における主要部隊新編状況（2016年以降）（概念図）



陸上自衛隊の南西諸島への配備後の態勢

東アジア地勢図

A legend box containing symbols for various geographical features and a scale bar. The text is in Japanese and includes a north arrow and a graphic scale.

● ペキン

日本における主要米軍基地



2 自衛隊の現状

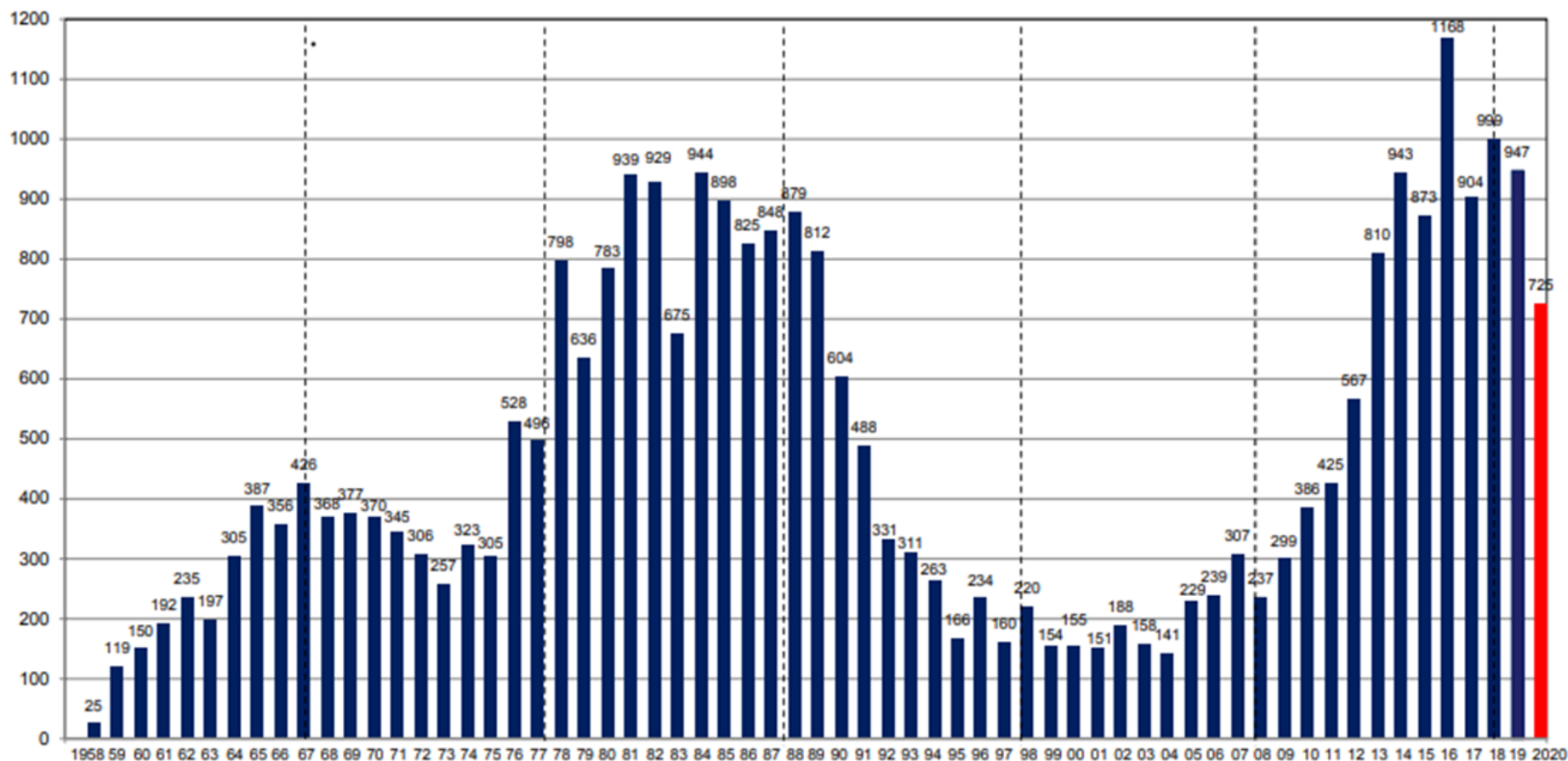
日本周辺の様況

航空自衛隊のスクランブル発進回数推移

年度緊急発進回数の推移

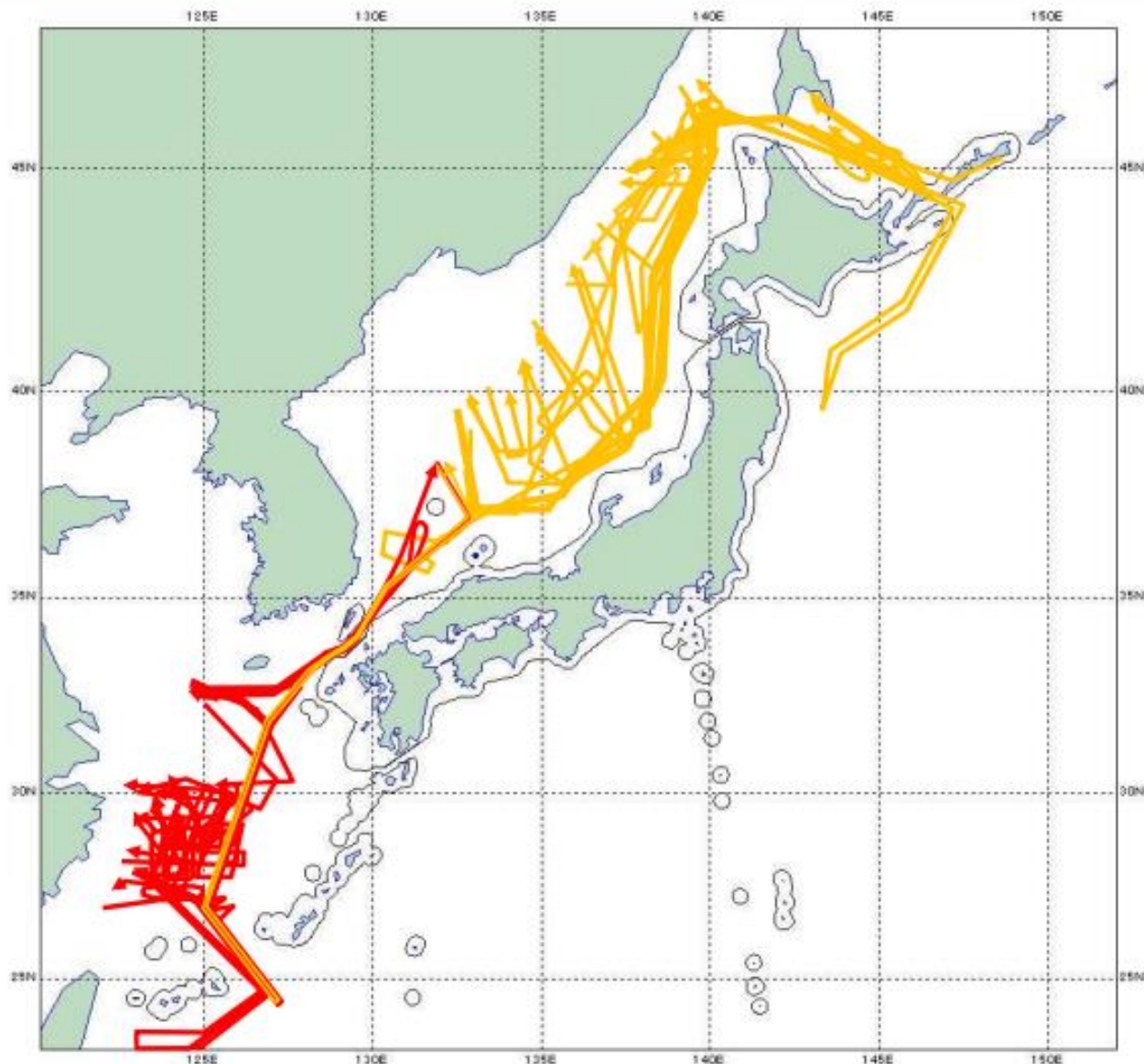
2021年3月31日現在

回数



年度

中国機とロシア機の日本周辺の飛行経路



→ : 中国機の経路 → : ロシア機の経路

2 自衛隊の現状

陸・海・空自衛隊の現状

自衛官の定員と現員

自衛官の定員及び現員並びに自衛官の定数と現員数の推移

(2021.3.31現在)

区分	陸上自衛隊	海上自衛隊	航空自衛隊	統合幕僚監部等	合計
定員	150,695	45,329	46,943	4,187	247,154
現員	141,443	43,419	43,830	3,817	232,509
充足率(%)	93.9	95.8	93.4	91.2	94.1

区分	非任期制自衛官								任期制自衛官	
	幹部		准尉		曹		士			
定員	46,205		4,931		140,349		55,669			
現員	43,039	(2,532)	4,712	(102)	139,809	(8,997)	24,197	(3,052)	20,752	(3,576)
充足率(%)	93.1		95.6		99.6		80.7			

(注) 1 現員の()は女子で内数

2 定員は予算定員

陸海空自衛隊の担任区分

- 凡例：
— 陸上自衛隊（5個方面隊）
● 海上自衛隊（5個地方隊）
— 航空自衛隊（4個方面隊等）



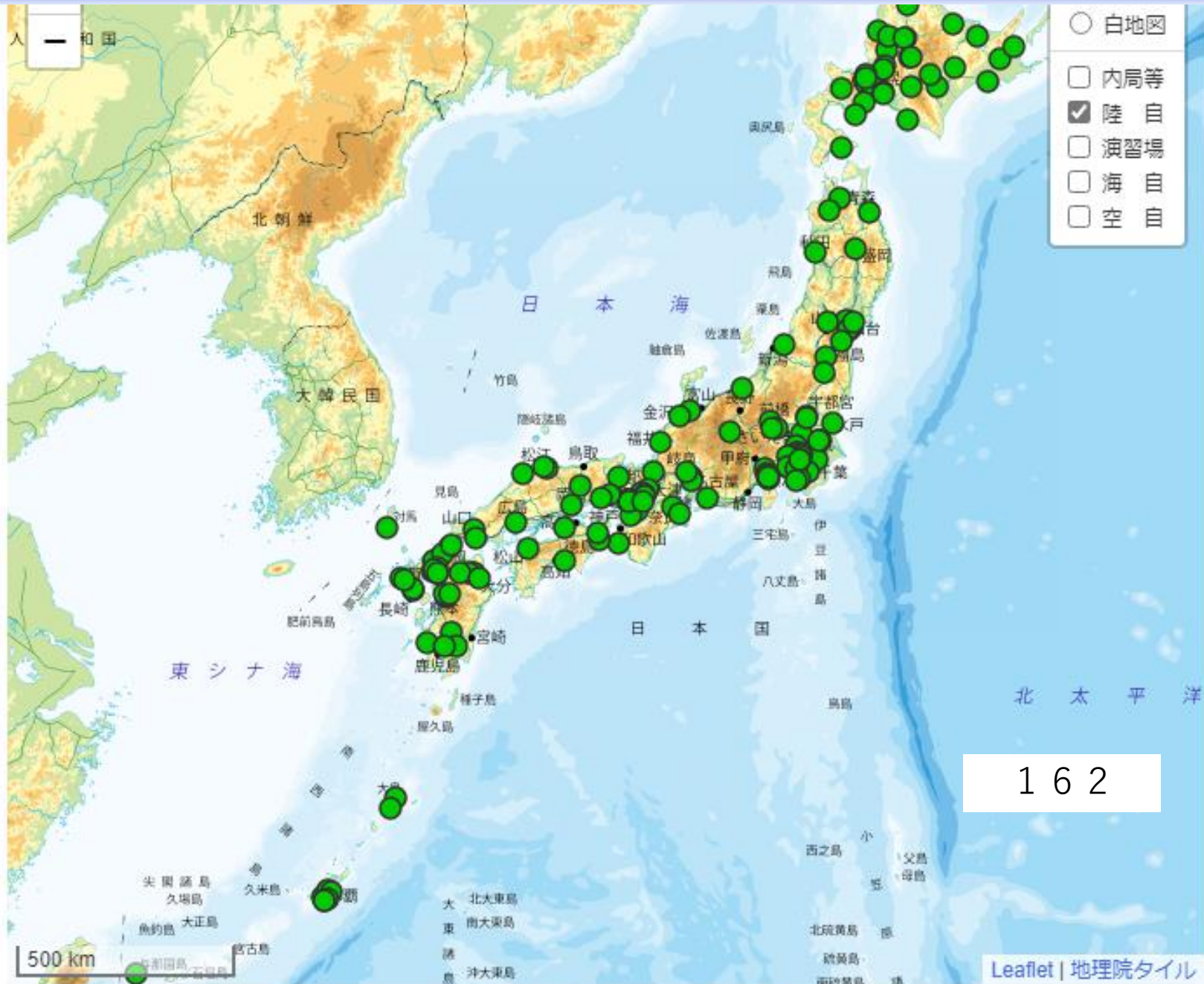
航空自衛隊基地の配置



海上自衛隊基地の配置



陸上自衛隊の駐屯地の配置



162

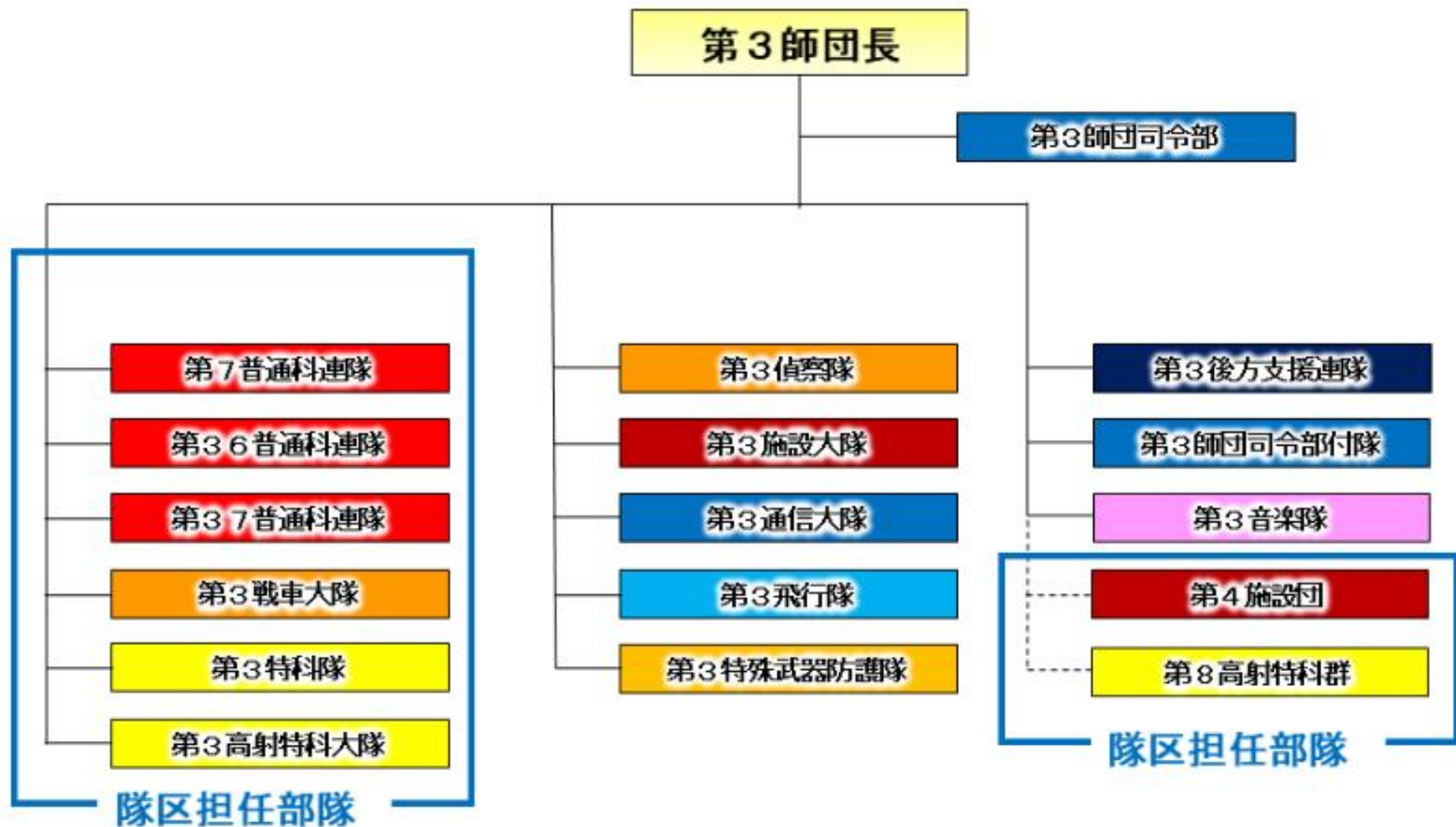
陸上自衛隊の師団・旅団の担任区分

- 全国を15個の区画に分けて、師団・旅団が災害派遣を担当
- 近畿2府4県は第3師団（伊丹市）が担任

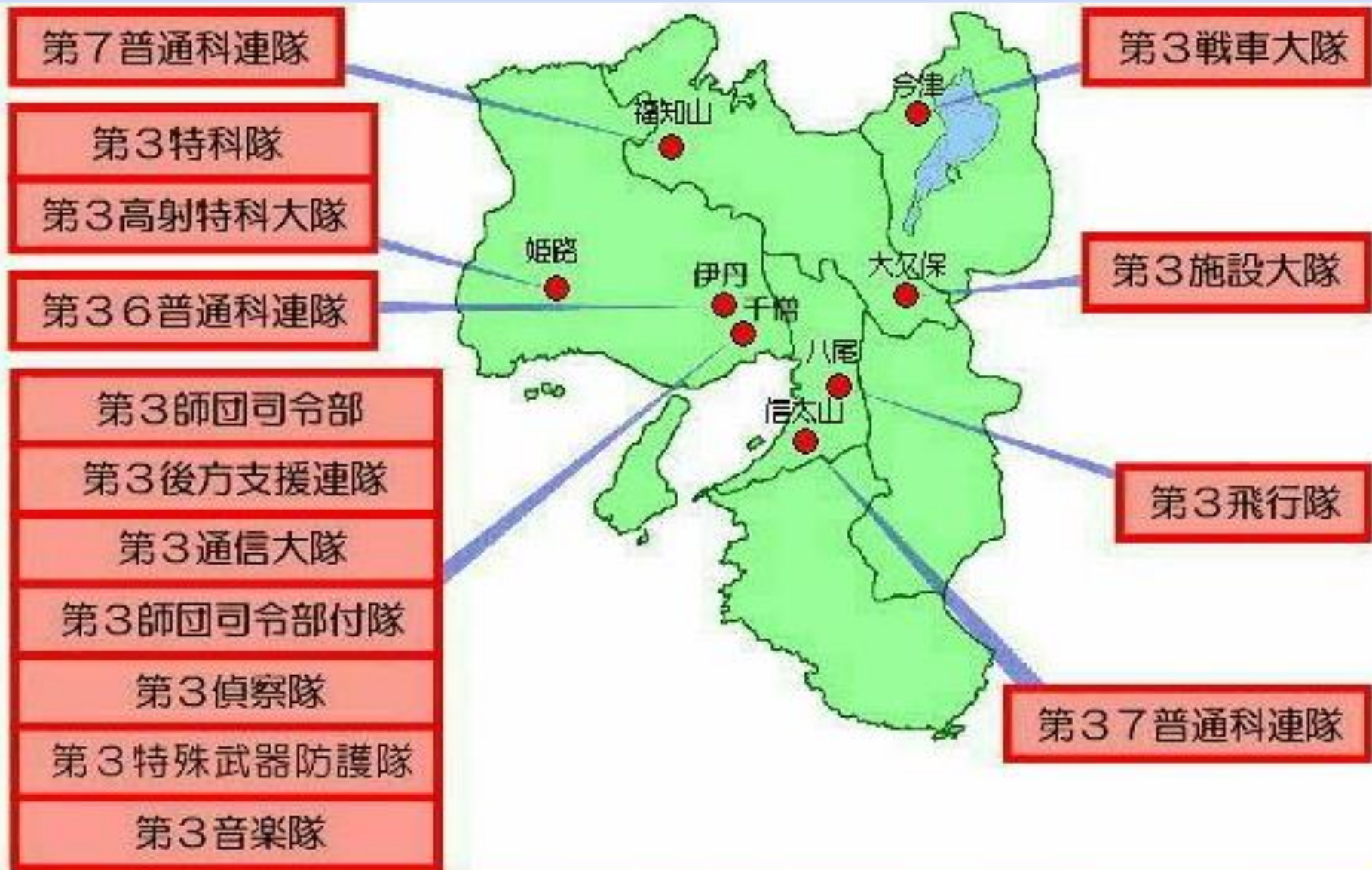


災害派遣時の第3師団の体制

第3師団の部隊編成



第3師団を編成する部隊の配置



近畿2府2県の8個駐屯地に、13個部隊を配置 ※

3 災害派遣と陸上自衛隊

近年の災害

大規模災害は忘れないうちにやってくる

阪神淡路大地震	(H7)
中越地震	(H16)
能登半島沖地震	(H19)
岩手・宮城内陸地震	(H20)
東日本大震災	(H23)
熊本地震	(H28)
鳥取県中部地震	(H28)
福島県沖地震	(H28)
大阪府北部地震	(H30)
房総半島台風	(R1)
熱海市伊豆山土石流	(R3)
福島県沖地震	(R4)

災害派遣の枠組み

1 要請者

都道府県知事など

2 災害派遣を命ずる者

○方面総監

○師団長・旅団長

○駐屯地司令の職にあるもの

3 要請の要件 → (1)～(3)を総合的に判断して決定

(1) 公共性

公共の秩序を維持するため、人命又は財産を社会的に保護しなければならない必要があること。

(2) 緊急性

差し迫った必要があること。

(3) 非代替性

自衛隊の部隊が派遣される以外に他の適切な手段がないこと。

なぜ、自衛隊は素早く集まって活動できるのか

平常時

- ・ FAST-FORCEによる待機
(First Action Support Force)
(陸・海・空)

発災時

- ・ FAST-FORCEの参集
- ・ FAST-FORCEの出動

- ・ 隊員の参集

- ・ 隊員への準備命令
(状況を把握、活動内容を考慮して準備する人員、機材、燃料等を指示)

- ・ 必要な機材の積載
(食事、燃料、機材)

- ・ 主力の出動

出動時

- ・ FAST-FORCEによる現地偵察、関係機関との調整
- ・ 主力部隊の受け入れ

現地活動時

- ・ 主力の活動
- ・ 隊員交代
- ・ 不足する機材、食料等の補填

撤収時

- ・ 主力の活動



携行する食料の積載



準備の命令



現地での捜索・救助



先発隊による偵察



現地での休息

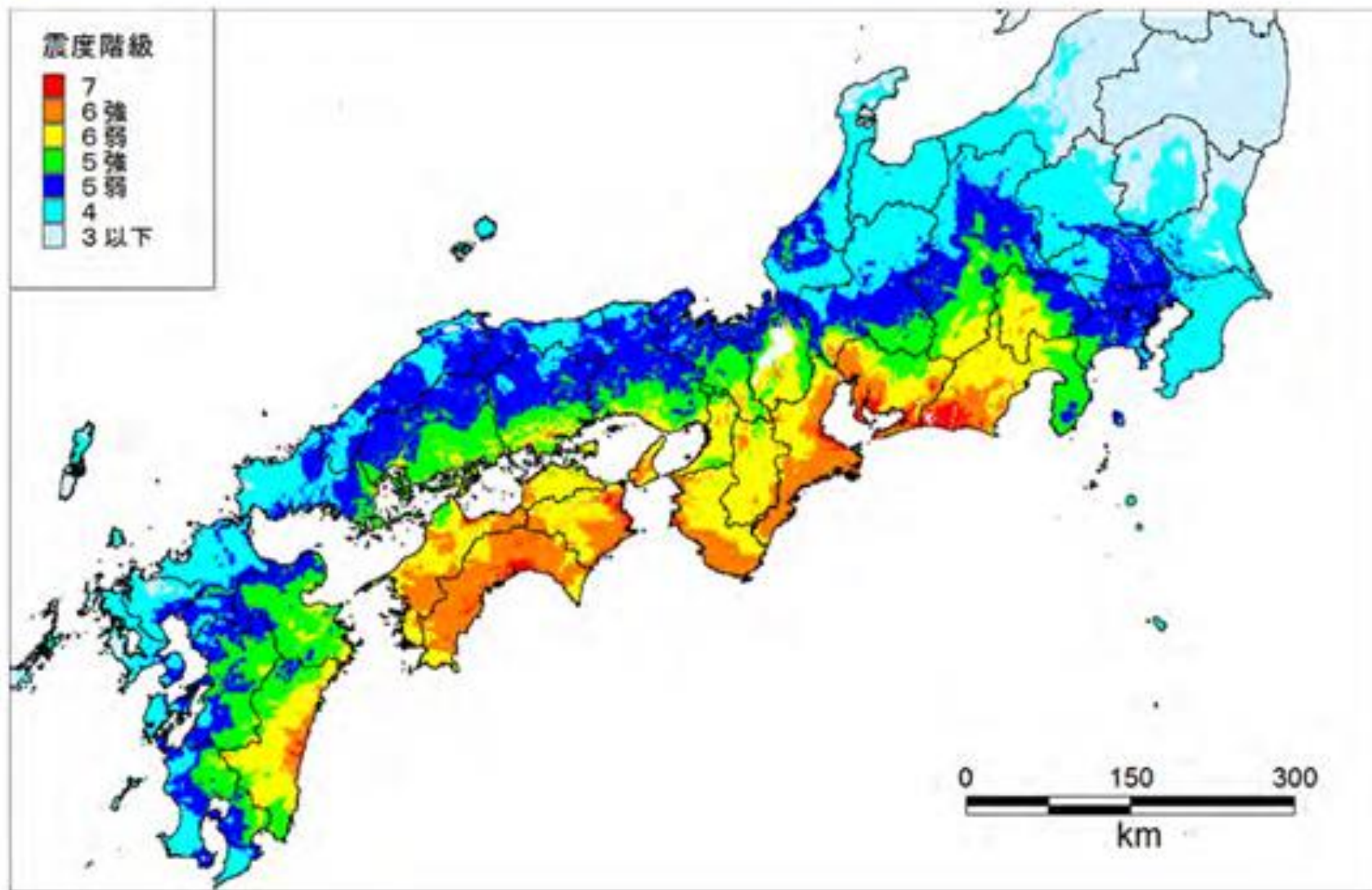


災害派遣からの撤収

4 奈良県の防災

**奈良県内ばかりでなく紀伊半島全体の
防災拠点となる
大規模広域防災拠点の整備**

南海トラフ地震（想定）と被害見積



「大規模な広域防災拠点」の現状

紀伊半島における課題と大規模広域防災拠点の必要性

凡 例

- ★ 基幹的広域防災拠点
- ★ 大規模な広域防災拠点
- 広域応援部隊の派遣先対象府県 (重点受援県)
- 広域応援部隊の派遣先対象府県 (重点受援県以外)
- ◎ 大規模広域防災拠点整備予定地

⑤大分スポーツ公園

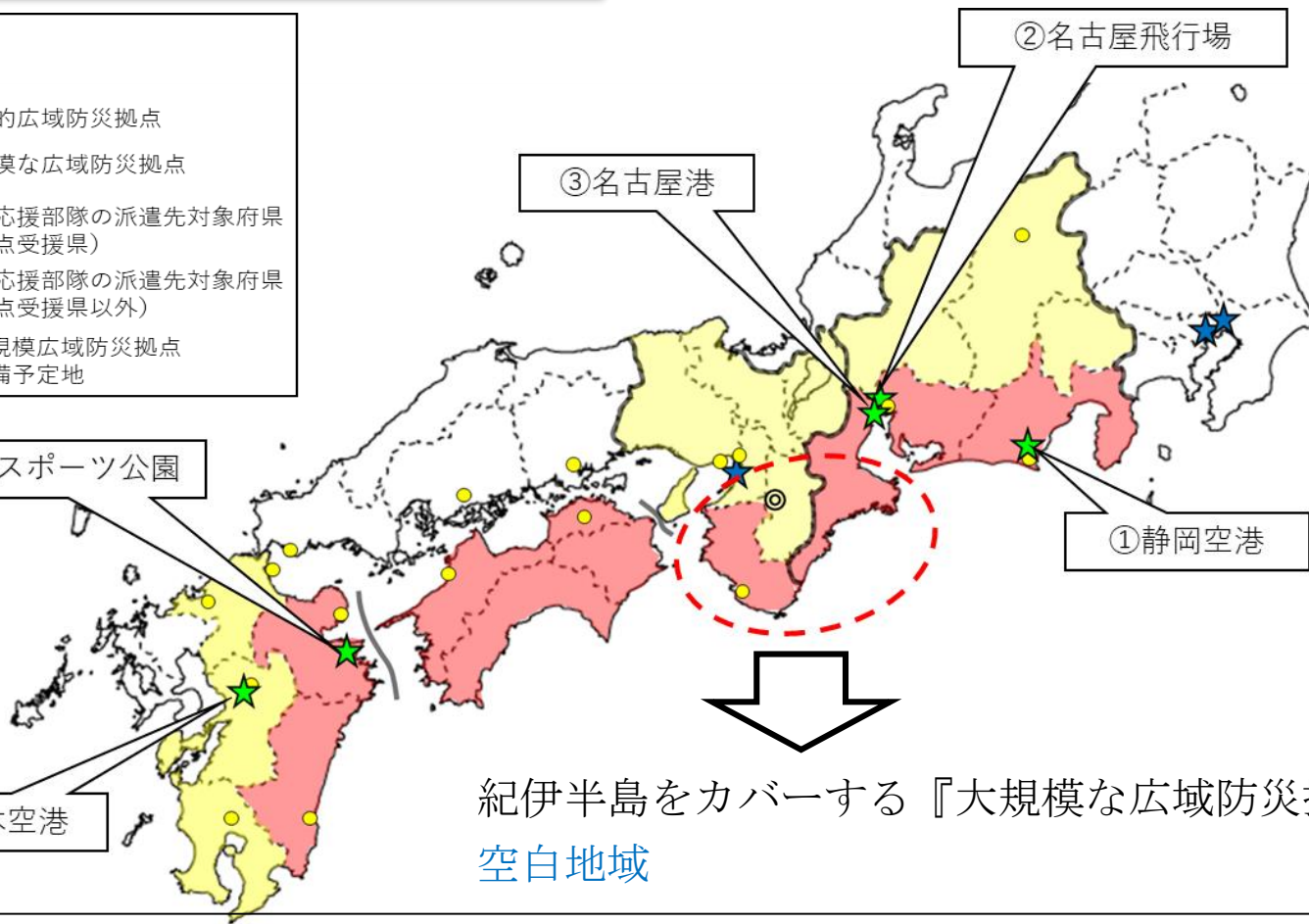
④熊本空港

③名古屋港

②名古屋飛行場

①静岡空港

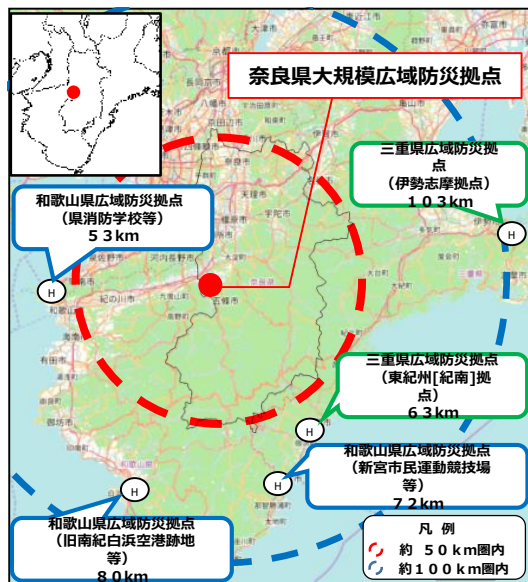
紀伊半島をカバーする『大規模な広域防災拠点』の
空白地域



五條市の大規模広域防災拠点の立地

計画地の立地状況

- 奈良県及び紀伊半島の中心部に位置
- ・奈良県の大部分が概ね50km圏内
 - ・紀伊半島の大部分が概ね100km圏内



- ・県内全域に対して、救難・救助、物資の支援等の迅速な対応が可能
- ・近隣県との連携により、南海トラフ地震等による津波被害が想定される紀伊半島沿岸部に対して救助救援等の活動が可能

交通アクセスの状況

- ・近畿圏の外郭環状である京奈和自動車道が近接
- ・国土強靱化の軸となる「紀伊半島アンカールート」の結節点



- 道路ネットワークにより
- ・県内の他の防災拠点との連携、市町村への円滑な支援が可能
 - ・内陸ルートを利用した紀伊半島沿岸部に対する救助救援等の活動が可能

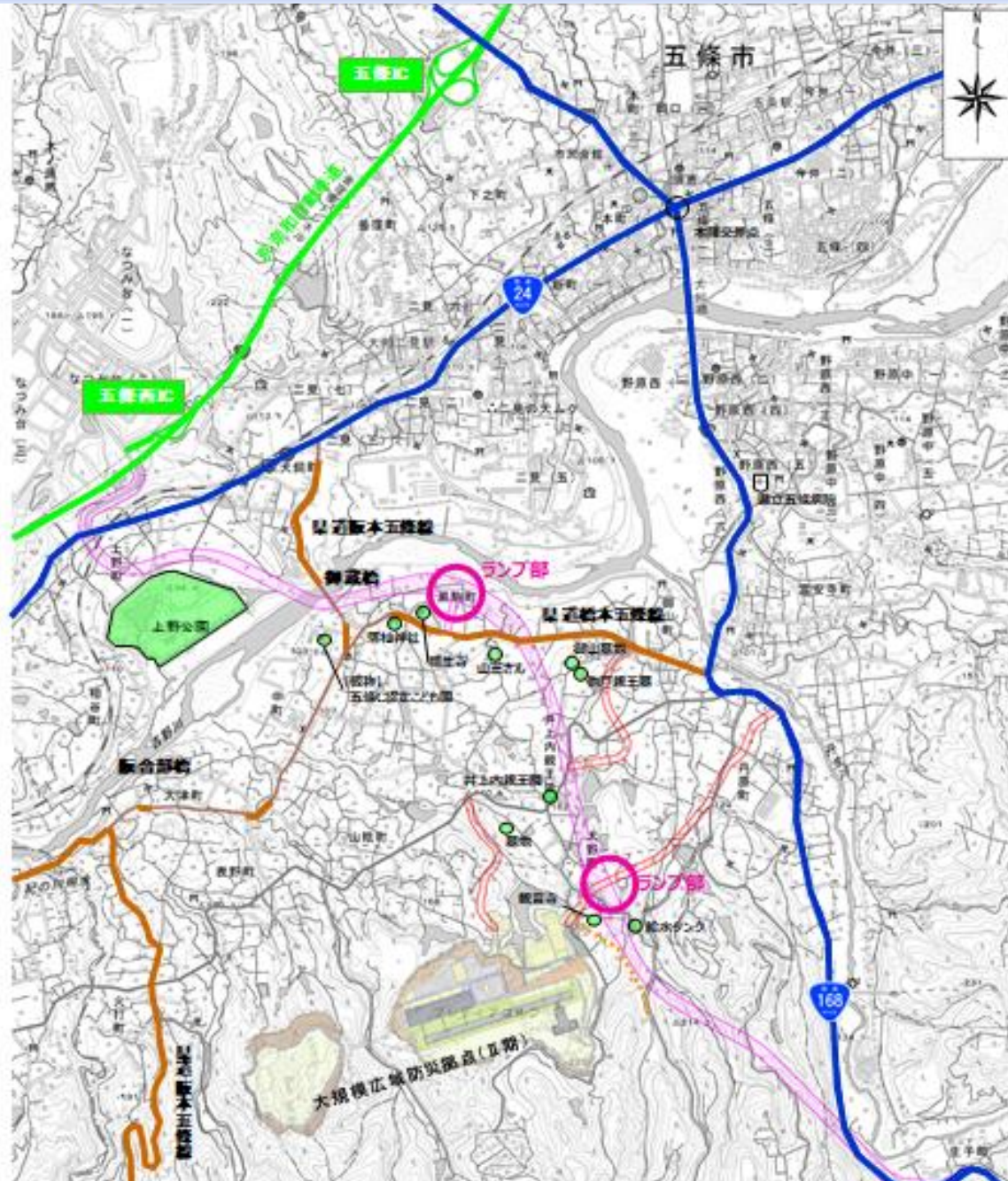
医療施設の状況

- ・ドクターヘリの基地である南奈良総合医療センターが付近（直線距離で約10km）に立地



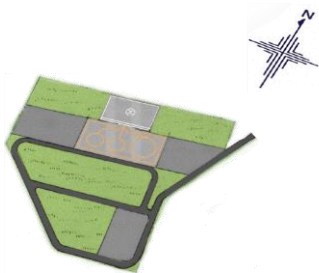
- 航空機の活用により
- ・県内に3箇所ある三次救急医療機関（奈良県立医科大学附属病院、奈良県総合医療センター、近畿大学奈良病院）との連携により迅速な患者搬送が可能

五條市に大規模広域防災拠点を整備

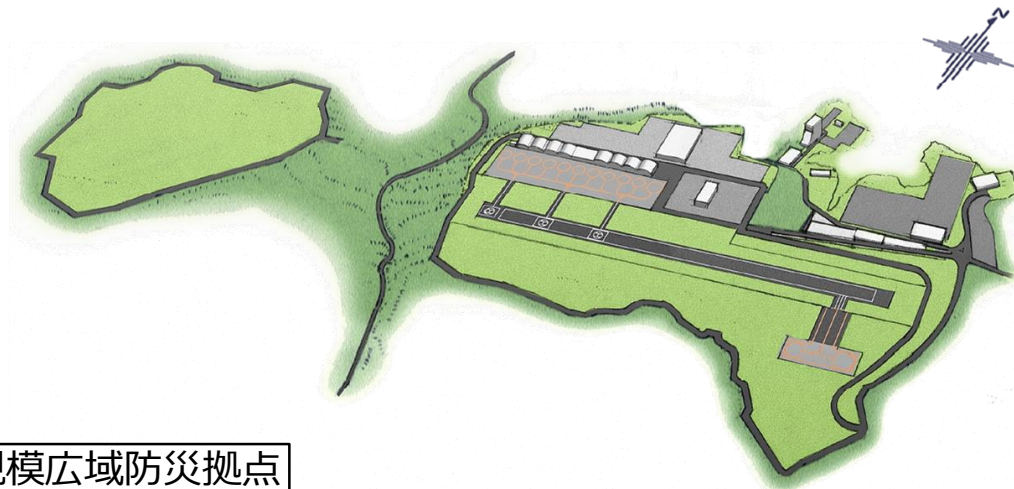


3期に分けて整備

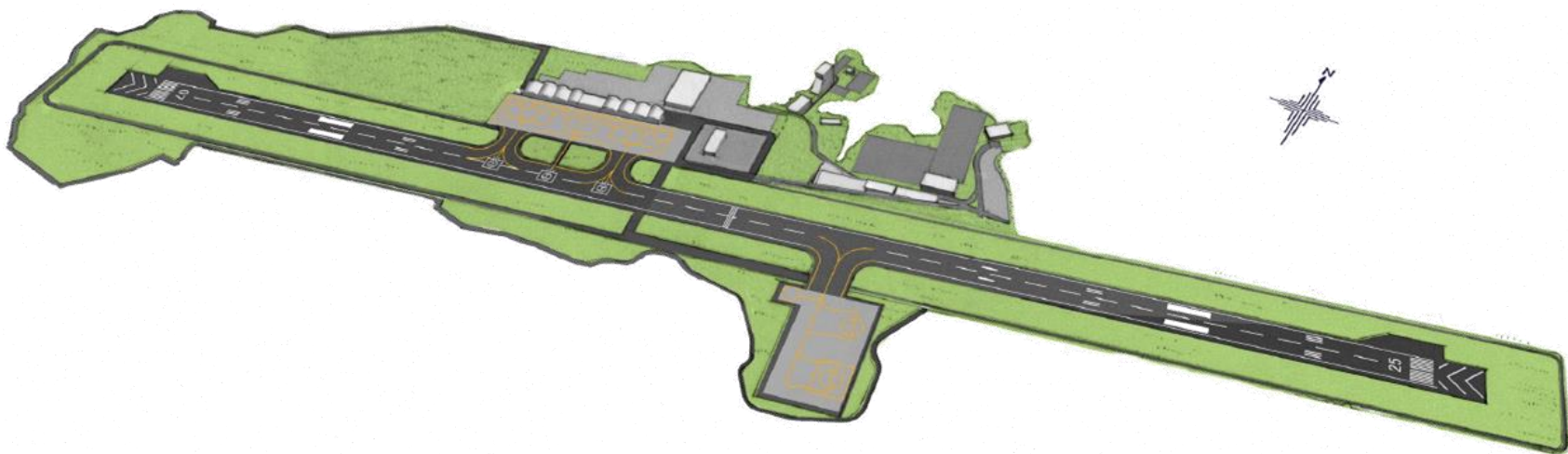
1期：5haの平場を有する
広域防災拠点



2期：600m級滑走路を有する大規模広域防災拠点



3期：2,000m級滑走路を有する大規模広域防災拠点



5 おわりに

資料



平和を仕事にする



航空自衛隊

航空自衛隊は、わが国の空を守る唯一の組織として、24時間 365日、日本周辺の空域を常時監視し、わが国の平和と独立を守っています。

日本をまもる

陸上自衛隊

創隊70年を迎えた陸上自衛隊は、部隊配備や常時継続的な機動などにより抑止力を強化、事態生起時には、領域横断的な戦力を発揮して、侵攻を阻止・排除します。

海上自衛隊

海上自衛隊は、常時継続的な情報収集・警戒監視や各種戦の効果的な遂行により、わが国の領域及び周辺海空域を防衛し、海上交通の安全を確保します。

39 40

ご清聴ありがとうございました。